



2017年2月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

「C型肝炎の新しい治療法」

名古屋共立病院 消化器内科、消化器化学療法科 部長
日本肝臓学会認定 肝臓専門医 栗本 拓也

C型肝炎をご存知ですか？

今回は、C型肝炎はどのような病気か、そしてなぜ治療が必要か、さらに最新の治療法について説明します。

1. C型肝炎はどのような病気か

C型肝炎は、C型肝炎ウイルスの感染により肝臓が炎症を起こし、肝臓の細胞が徐々に破壊されていく病気です。細胞の破壊が進むと肝臓の働きが悪くなり、肝硬変と呼ばれる状態になります。

日本におけるC型肝炎ウイルスの感染者は150～200万人と推定されていますが、血液検査を行わない限り自分がウイルスに感染しているかを知ることはできません。

一方で、C型肝炎ウイルスの感染者を「キャリア」と呼ぶことがあります。この言葉はある意味で誤解を招きがちです。過去には「キャリア＝ウイルスに感染しているが病状は落ち着いている」と誤って認識され、ウイルスに感染していることを知っていても積極的に治療は行われてきませんでした。しかしその認識は、もはや時代遅れとなりました。

2. なぜ治療が必要か

キャリアの方でも体内にウイルスが存在している限り、肝臓の細胞は徐々に破壊されていきます。このため長期間にわたり無症状で経過していても肝臓は少しずつダメージを受けており、気付いた時には肝硬変まで進行していることもあります。(図1)

さらに一度肝硬変になってしまうと、元の状態に回復させることはできません。ダメージを受けた肝臓には肝がんが発生しやすくなり、命に関わることもあります。現在では、肝硬変への進行を防ぎ肝がんの発生を予防するために、全てのC型肝炎ウイルス感染者に対する積極的な治療が推奨されています。



3. 最新の治療法

C型肝炎ウイルスに対する治療薬として、最近ではほとんどの患者さんに対して「**直接作用型 抗ウイルス薬**(略して **DAA**)」が使用されています。数年前までは、注射薬のインターフェロンが主流でした。しかし2014年に初めての **DAA** が発売されると、その効果の高さや副作用の少なさ、飲み薬であるといった利便性の高さなどから、あっという間に **DAA** が標準となりました。

この **DAA**、当初は薬価の高さばかり注目されることが多かったのですが、実はかなりの優れもの。適応のある患者さんに使用すれば100%に近い成功率でウイルスを消失させることが可能であり、これまでの治療を劇的に変えました。現在では複数の **DAA** が発売されていますが、治療対象となるウイルスの種類や治療期間、副作用の種類が異なり、各薬剤の特徴に基づいて使い分けがされるようになってきました。

特に最近注目されているのが、血液透析患者さんのC型肝炎治療です。過去にはインターフェロン治療を副作用に困りながら実施していましたが、一部の **DAA** が血液透析中の方でも安全に使用できることが分かり、高い治療効果が確認されています。(図2)



名古屋共立病院でも既に 9 名の血液透析患者さんに治療を行い、全員で C 型肝炎ウイルスを消失させることができました。ウイルスの消失は肝硬変への進展を防ぎ、将来的な肝がん発生の危険性低下が期待できるなど、患者さんへのメリットは非常に大きいと言えます。

以上のように、C 型肝炎の治療は急速な進歩を続けており、今後も治療効果や安全性のさらなる向上を目指した新薬が登場してきます。同時にこれらを適切に使用して最大限の効果を引き出すためには、新薬を熟知した専門医の力が必要です。名古屋共立病院は、質の高い透析医療と肝臓専門医による診療の両方を提供できる数少ない病院の 1 つであり、これからも C 型肝炎をはじめとする肝臓疾患の診断から治療まで、幅広く対応していきます。



医師紹介

消化器内科、消化器化学療法科 部長

栗本 拓也(くりもと たくや)

日本内科学会 総合内科専門医
日本消化器病学会 消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
日本肝臓学会 肝臓専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医